

学術委員会では、東京都農林総合研究センターとの協働調査として、平成23年度から平成26年度までマサキ品種同定調査を実施しました。調査結果が取りまとめられましたので、紙面にて紹介します。

マサキの品種同定と呼称の整理

【目的】

緑化植物がエンドユーザーに届けられるまでには、産地や消費地の流通業者のネットワークにより情報が交換され、多くの流通業者の方が関わります。一般的には、電話やファックスによる価格や数量の情報が交わされるのみで最終の納品となっています。しかし、産地によって植物の呼

称が異なることがあり、それが納品時にトラブルとなることがあります。そこで、(しばしば問題となるマサキの呼称名の整理を行い、流通上のトラブルの解消を図ります。

【方法】

流通上問題となるベッコウマサキ他5種について、各ブロックの社園の協力により供試材料の提供を得



2011年10月5日 定植状況

2011年10月5日に、東京都農林総合研究センターの圃場(沖積火山灰土壌)に株間1m、条間1mで定植しました。施肥は基肥として化成肥料(N-P-K=8-8-8)を100g/m²とし、追肥は春肥として化成肥料(N-P-K=8-8-8)を150g/m²を毎年施用しました。品種の同定は、樹木大図説(上原

敬二著、有明書房)を基本として、2013年6月12日および2014年1月11日に個体株の観察を行い、品種の同定及び呼称の整理を行いました。

【成果の概要】

1. ベッコウマサキは1都5県6社園から6株の提供があり、地元呼称名は3種類であった。ギンマサキは1都5県6社園から6株の提供があり、地元呼称名は1種類であった。キンマサキは1都6県8社園から8株の提供があり、地元呼称名は2種類であった。オウゴンマサキは5県6社園から6株の提供があり、地元呼称名は1種類であった。

2. 同定の結果 ナカフキンマサキ、ギンマサキ、オウゴンマサキ、オオサカベッコウマサキ、マサキの標準株を選定し、流通上の呼称整理を行った。

資料提供 東京都農林総合研究センター

ナカフキンマサキの標準株



葉は稍小型、脈沿に帯紅色黄斑があり、周囲は青緑色を呈する



あたらにナカフキンマサキとして同定された株

茨城からキンマサキとして提供 東京からベッコウマサキとして提供(標準株) 東京からベッコウマサキとして提供 愛知からベッコウマサキとして提供 福岡からベッコウマサキとして提供

ギンマサキの標準株



斑は銀白色で覆輪状にあられる



あたらにギンマサキとして同定された株

茨城からギンマサキとして提供 愛知からギンマサキとして提供 兵庫からギンマサキとして提供



ギンマサキ(?) 新たに命名

栃木からフイリマサキとして提供 愛知からフイリマサキとして提供 福岡からギンマサキとして提供

キンマサキの標準株



葉は稍大型、稍円形、斑は黄色覆輪状



あたらにキンマサキとして同定された株

栃木からキンマサキとして提供(生育の遅い系統) 茨城からベッコウマサキとして提供 愛知からオウゴンマサキとして提供 兵庫からキンマサキとして提供

オウゴンマサキの標準株



初め葉に黄色ウブ斑入り、後に緑色となる



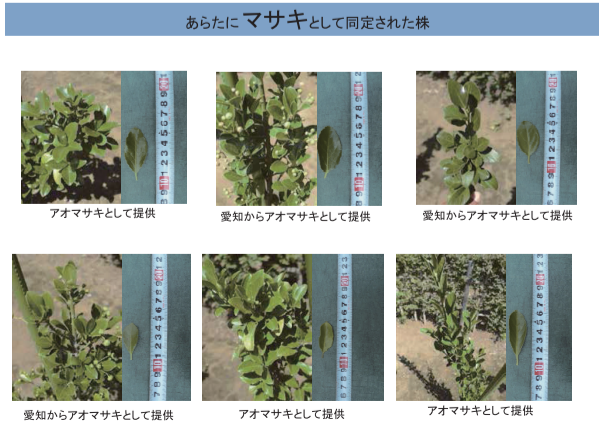
あたらにオウゴンマサキとして同定された株

茨城より提供(別系統) 東京からキンマサキとして提供(別系統) 愛知からオウゴンマサキとして提供(別系統) 福岡からオウゴンマサキとして提供(別系統) 鹿児島からオウゴンマサキとして提供

マサキの標準株



基本の青葉種



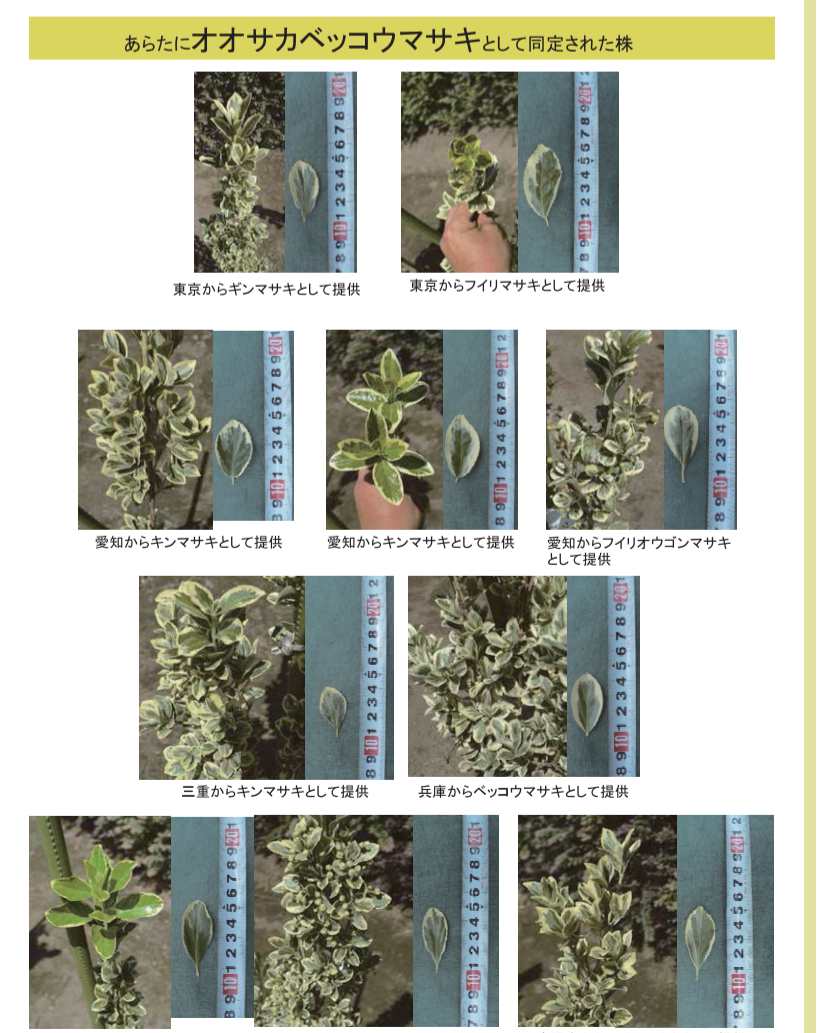
あたらにマサキとして同定された株

アオマサキとして提供 愛知からアオマサキとして提供 愛知からアオマサキとして提供 愛知からアオマサキとして提供 愛知からアオマサキとして提供 愛知からアオマサキとして提供



オオサカベッコウマサキの標準株

葉は稍大型、斑は淡黄色覆輪状



あたらにオオサカベッコウマサキとして同定された株

東京からギンマサキとして提供 東京からフイリマサキとして提供

愛知からキンマサキとして提供 愛知からキンマサキとして提供 愛知からフイリオウゴンマサキとして提供

三重からキンマサキとして提供 兵庫からベッコウマサキとして提供

福岡からキンマサキとして提供 福岡からフイリマサキとして提供 鹿児島からフイリマサキとして提供